

会員各位

岐阜県病院薬剤師会
会長 遠藤 秀治

第 263 回岐阜県病院薬剤師会研修会開催のご案内

拝啓

時下、先生におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。
さて、台風で延期にしていた昨年 9 月の研修会を下記のとおり開催しますので、奮ってご参加頂きますようご案内致します。

敬具

記

日時：平成 24 年 5 月 19 日（土）午後 3 時 00 分より
場所：長良川国際会議場 4 階 大会議室
岐阜市長良福光 2695 - 2 Tel (058) 296 - 1200

【内容】 総合司会 高山赤十字病院 薬剤部 吉岡 史郎

- 1、 会長挨拶
- 2、 会長講演

『岐阜県病院薬剤師会の体制と活動について』

岐阜県総合医療センター 遠藤 秀治

参加費：薬剤師会会員 500 円 非会員 2000 円

* 当研修会は岐阜県病院薬剤師会研修制度及び日本薬剤師研修センター研修制度に該当する研修会です。

主催 岐阜県病院薬剤師会

学術講演会のご案内

謹啓

時下、先生におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、このたび下記のとおり学術講演会を開催させていただき運びとなりました。
ご多忙中誠に恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようご案内
申し上げます。

謹白

記

日時：平成 24 年 5 月 19 日（土）午後 4 時 00 分より

場所：長良川国際会議場 4 階 大会議室

岐阜市長良福光 2695-2 TEL (058) 296—1200

■製品紹介

『 選択的 NK1 受容体拮抗型制吐剤 プロイメンド点滴静注用 150mg 』

小野薬品工業株式会社

■特別講演

座長 岐阜大学医学部附属病院 薬剤部長 伊藤 善規 先生

『がん化学療法における患者指導と

情報の共有化 』

九州大学病院薬剤部 教授・薬剤部長

大石 了三 先生

共催 岐阜県病院薬剤師会
小野薬品工業株式会社

※ 講演会終了後、グループディスカッションを計画しております。

がん化学療法における患者指導と情報の共有化

九州大学病院薬剤部 大石了三

本講演では、がん化学療法における薬剤管理指導業務の重要性、指導および記録のポイント、さらに患者を含む院内スタッフ間での情報の共有化、薬薬連携における情報の伝達、について述べる。

がん化学療法において薬剤師の業務は、抗がん剤の処方鑑査と無菌調製から始まったが、患者への服薬指導、医療スタッフへの情報提供、副作用モニタリングと対策、緩和ケアへと広がり、さらにレジメン管理、治療計画への関与、抗がん剤投与時への関与、副作用一元管理、薬薬連携へと拡大している。

がん化学療法施行患者への薬剤管理指導業務は、患者の不安を取り除き、抗がん剤やレジメンに対する理解を高め、安全に化学療法を行っていくうえで非常に重要である。1回の指導に 380 点、医薬品安全性情報等管理体制加算 50 点と診療報酬上でも評価されている。しかし、薬剤管理指導料の算定に十分な指導と記録を効率よく行うことは容易ではない。当院では、これまでに『がん化学療法ワークシート』の書籍で紹介してきたレジメンごとの副作用モニタリングシートを改良して患者指導シートを作成して利用している。これらの指導ツール、当院で行っている薬剤管理指導業務のポイントを紹介する。患者指導シートはスタッフ間の患者情報の共有化にも利用しているが、多くのスタッフがいてその入れ替わりも早い大学病院ではとくに有用なツールとなっている。

最近、経口抗がん剤の種類が増え、調剤薬局で調剤されるケースが徐々に増えてきている。しかし、薬局では病院における化学療法を知ることが容易ではない。今年の診療報酬改定で退院時服薬指導加算 50 点が退院時薬剤情報管理指導料 90 点に変更になったことは大きな意味がある。これにより、入院時の情報がお薬手帳を通して薬局に伝えられる。病院は早急にこの業務推進を図るべきである。入院時あるいは外来化学療法で用いる患者指導シートは患者を通じた薬局への情報提供にも利用できる。

略 歴

平成 23 年 6 月 24 日現在

大石了三（おおいしりょうぞう）昭和 23 年 7 月 13 日生

九州大学病院薬剤部教授・薬剤部長
薬学府医薬品情報解析学分野教授

現住所 福岡市早良区百道浜 3-4-8-503

学 歴

昭和 4 6 年 3 月 九州大学薬学部製薬化学科卒業
昭和 5 1 年 1 2 月 九州大学大学院薬学研究科単位修得の上退学
昭和 5 3 年 3 月 薬学博士（九州大学）を授与

職 歴

昭和 5 2 年 1 月 九州大学医学部薬理学教室助手
昭和 5 4 年 3 月 米国ミネソタ大学医学部薬理学教室に留学（2年間）
昭和 5 7 年 2 月 岡山大学医学部薬理学教室助手
昭和 5 7 年 4 月 同講師
昭和 6 0 年 5 月 同助教授
平成 5 年 7 月 岡山大学医学部附属病院薬剤部助教授、副薬剤部長
平成 6 年 4 月 九州大学医学部附属病院薬剤部教授、薬剤部長
（平成 1 5 年 1 0 月より九州大学病院へ名称変更）
現在に至る

所属学会

日本医療薬学会（理事）、日本薬理学会（評議員）、日本緩和医療薬学会（理事）、
日本臨床薬理学会（評議員）、日本トキシコロジー学会（評議員）、
九州山口薬学会（会頭）、ほか

役員等

日本病院薬剤師会（常務理事、専門薬剤師認定制度委員会委員長）、
福岡県病院薬剤師会（会長）、ほか

受賞

昭和 6 3 年 3 月 日本薬理学会奨励賞
平成 2 1 年 6 月 日本病院薬剤師会 病院薬学賞

研究テーマ

薬物有害作用の発現機序の解明と予防法の確立